令和８年度
第１回品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会推進会議

日時：令和８年７月３０日（木）　午後３時～５時
場所：品川区役所　第二庁舎６階２６２会議室
出席：８名
欠席：２名
傍聴：０名

１．開会
２．　会議概要
　（１）条例等 実施根拠
　（２）会長の互選および副会長の指名
　（３）委員紹介
３．事業計画
　（１）計画概要
　（２）令和８年度新規事業紹介
４．調査および審議
　（１）令和７年度推進状況評価について
５．その他
６．閉会

■事務局　（人権・ジェンダー平等推進課長）
　それでは定刻になりましたので、ただいまから令和８年度第１回品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会推進会議を開催いたします。
　本日はお忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございます。
　私は司会を務めます、人権ジェンダー平等推進課長です。よろしくお願いいたします。
　「次第１．開会」について、初めに品川区を代表しまして、区長室長よりご挨拶をさせていただきます。

■区長室長
　みなさま、こんにちは。区長室長でございます。
　本日は、今期第１回目となります品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会推進会議にご出席いただき誠にありがとうございます。開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。
　区は、森澤区長就任後の令和６年４月にジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を実現するための条例を施行しました。
　また昨年度末には、条例制定等法改正等を踏まえ関連計画を策定いたしました。この計画は、条例の基本理念を具現化し、関連施策を総合的かつ計画的に推進するものでございます。
　こちらにいらっしゃる皆様方を含め、多くの方々のご協力とご尽力によりこの重要な計画が策定できましたことに深く感謝を申し上げます。
　本日開催の推進会議は、当条例に基づく区長の附属機関として必要な事項を調

査、審議いたします。委員の皆様には、それぞれのお立場から忌憚のないご意見を賜り、実効性のある施策につなげたいと存じます。皆様のご協力により、品川区が誰もが自分らしく生きられるまちとしてさらに発展することを確信しております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）

会議の開催は「品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を実現するための条例」施行規則第５条第２項において委員の半数以上の出席をもって開催するとしております。

本日は、委員おふたりが欠席、また委員おひとりから少し遅れるとのご連絡をいただき、２名の欠席、１名遅参ということで、７名の委員の出席を現在確認しております。総数の半数以上の出席がございますので、ここに会議開催の成立をご報告します。

また、こちらの会議は傍聴可能な会議となっております。傍聴者がいた場合は傍聴の許可を取らせていただきます。傍聴希望者から写真撮影の希望があった場合は、会議冒頭に自席からの写真撮影のみ可能で、その後の写真撮影、録画、録音もできないことを、ご承知おきください。

議事録の公開の際は、会議内でみなさまが自由にご意見言っていただけるよう、議事録で誰の発言かという発言の特定ができないようにお名前は伏せたうえで、個人を特定しない委員の全発言について議事録を作成させていただきます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

「次第２　会議概要、（１）条例等実施根拠」です。

まず『資料１　品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を実現するための条例』をご覧ください。

この条例は、すべての人が性別や性的指向、ジェンダーアイデンティティにかかわらず、性別等に起因した差別や暴力を受けることなく、多様な個人として尊重され、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に平等に参画する機会が確保され、その個性と能力を十分に発揮して、自分らしく生きられる生きることのできる社会の実現を目指して制定されたものです。

第１条では条例制定の目的が示されており、ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会の実現に関し、基本となる理念を明らかにし、品川区、区民等、教育関係者、事業者等の責務を定めることにより、ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、誰もが自分らしく生きられることのできる社会を実現する、としています。

第３条では条例の９つの基本理念を示しております。基本理念については後ほど、計画の説明で内容をお伝えいたします。

第１０条では推進計画を策定し推進していくことや、計画策定にはこの推進会議で委員のみなさまからご意見をいただくことについて示されています。

第１２条ではジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を実現するために、区長の附属機関として当会議体である「品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会推進会議」を設置すること。

２項では推進会議の内容について、（１）推進計画の策定、評価、変更その他推進計画に関する重要事項、（２）区のジェンダー平等社会推進施策に関する事

項、（３）前２号に掲げるものほか、区におけるジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会の実現に関するものとして区長が必要と認める事項、が、本会議体で調査および審議を行うものであり、今後、みなさまに取り扱っていただく内容になります。
　そのほか、委員は区長が委嘱する１０名以内で組織し、その任期は２年であることが定められています。本日、みなさまの机上に委嘱状を置かせていただいております。よろしくお願いいたします。
　以上簡潔でありますが、推進会議の実施根拠となります。
　続きまして、「次第２（２）会長の互選および副会長の指名」に移ります。
　「品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を実現するための条例」施行規則第４条２項により、会長は委員の互選により定め、副会長は委員のうちから会長が指名するとしております。
　まず、会長の選出をお願いいたしたいと思いますが、会長につきまして、推薦等ございましたらお願いいたします。

■委員
　はい。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　委員、お願いします。

■委員
　はい。私は谷口委員を会長に推薦したいと思います。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　ありがとうございます。他の方は何かございますか。
　委員お願いします。

■委員
　私も谷口委員に会長をしていただくことについて賛成いたします。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　ありがとうございます。ほかにはいかがですか。
　谷口委員、ご承知いただけますでしょうか。

■委員
　はい。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　それでは、ご承認については委員の拍手で承認を確認させていただきます。
　（拍手）
　皆様、ありがとうございました。
　それでは、ただいま谷口委員が会長に選出されました。
　続きまして、副会長は、委員の中から会長が指名するとされております。

谷口会長、副会長の指名をお願いいたします。

■会長
はい、副会長として寺﨑委員を指名させていただきたいと思います。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
寺﨑委員、ご了承いただけますでしょうか。

■副会長
こちらこそ、よろしくお願いいたします。

■事務局
会長と副会長が選任されました。こちらから先は、谷口会長に司会をお願いいたしたいと思います。
それでは会長、よろしくお願いいたします。

■会長
司会をお引き受けいたします。谷口です、よろしくお願いいたします。
「次第２（３）委員紹介」に移らせていただきます。

各委員および事務局より自己紹介を行う

■会長
みなさま、ありがとうございました。
本日欠席の委員も含め１０名のとても頼もしい委員と進めていけると思い、今からわくわくしております。よろしくお願いいたします。
それでは、次第「３．事業計画、（１）計画概要」について、事務局よりご説明をお願いいたします。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
「（１）計画概要」についてご説明いたします。お手元の『資料３　計画冊子』をご覧ください。
まず、みなさまの任期２年間でやっていただく基本的なものとして、区で令和６年に策定した条例と、お手元の『品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を実現するための計画（以下、推進計画）』の推進等があります。この推進計画は、令和８年３月に策定をしたものです。
この推進計画は３章から成っております。
第１章は、１ページから１０ページまで。こちらには、推進計画の基本的な考え方について記載をしております。
１１ページからの第２章では推進計画の４つの基本目標ごとに、現状と課題、指標や関係する各事業内容について記載をしております。
８７ページからの第３章は資料編です。区の推進体制や過去の計画策定経過や、３３年前に策定した人権尊重都市品川宣言、令和６年策定の条例、そのほか関連する法律や用語集を掲載しています。

まず、２ページの「１　計画策定の趣旨」では、当計画は令和６年４月施行の「品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を実現するための条例」の基本理念のもと、誰もが自分らしく生きられる社会の実現に向けて取り組むための計画となっていることが記されています。

条例の基本理念は、３ページから４ページに掲載している『９つの基本理念』のことで、「１．人権侵害の根絶」「２．多様な生き方の選択」「３．平等な参画機会の確保」「４．生活と仕事、学び、地域活動の調和」これはワーク・ライフ・バランスのことです。「５．リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の尊重」「６．ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を支える教育」「７．女性のエンパワーメント」「８．性的指向やジェンダーアイデンティティに起因する日常生活上の困難の解消」「９．国際社会・国内での取組に対する理解・推進」の以上９つを基本理念としています。

推進計画は、この条例の基本理念を具現化し、ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会の実現に関する施策および、ジェンダー主流化という考え方を取り入れ、総合的かつ計画的に推進していくために策定しました。

ジェンダー主流化については、７ページの「６　ジェンダー主流化」に記載がありますが、社会のあらゆる分野において、政策立案や意思決定の全過程にジェンダーの視点を取り入れ、ジェンダー平等を実現しようとする包括的な戦略のことです。区はジェンダー主流化を推進し、性別等にかかわらず、互いに尊重し合いながら、誰もが自分らしく生きられる社会の実現を目指して参ります。

５ページをご覧ください。「３　計画の位置づけ」については、この表の中央部分が品川区の内容です。上から『品川区基本構想』、『品川区長期基本計画』、『条例』があり、この『推進計画』という位置づけになります。

また、この推進計画自体が、法に基づくいくつかの計画を包含しています。まず『男女共同参画のための品川区行動計画（第６次）』として策定していますが、この中に『品川区配偶者暴力対策基本計画』『品川区女性活躍推進計画』『品川区困難女性支援基本計画』を包含しています。これらは、それぞれ左側の国と書いてあるところにある国の法律に基づいて策定をしている計画です。

次に、７ページ「５　計画の期間」です。この計画は、令和８年度から１２年度までの５年間の計画になります。

また、毎年、進捗を確認していきますが、この進捗確認の方法等につきましては後程、次第「４　調査及び審議」でお伝えします。

１０ページ「９　計画の体系図」が、当計画の全体図です。

計画は、左にある４つの『基本目標』、中央の１４の『施策』、右の４０の『取組の方向性』でできています。

各『基本目標』の下に、条例の９つの基本理念がリボン状の絵で入っています。基本目標に対して、条例のどの基本理念が主に関係しているかを示しています。

『基本目標Ⅱ』の枠にオレンジの丸で示されている『ＮＥＷ』は、前回の『男女共同参画のための品川行動計画（第５次）』から見て、新たに今回追加されたもの。『重点』は、重点取組の内容です。簡単にご説明をしていきます。

『基本目標Ⅰ　ジェンダー平等と性の多様性を尊重するまち』の重点取組として『（１）ジェンダー平等意識の醸成、①ジェンダー平等意識啓発の強化（広報・啓発活動の充実）』を行うことが挙げられております。同じく『基本目標Ⅰ

の（２）多様な性のあり方に対する理解促進と支援』における、『①性の多様性に関する理解促進に向けた教育』『②地域・事業者への啓発の促進』を重点として挙げて区民や事業者への啓発を実施していくとともに、『ＮＥＷ』新たな取組として、『③性の多様性に関する相談体制の整備・支援』として、にじいろ相談（ＬＧＢＴＱ専門相談）や同性パートナーへの住民票の写しの交付の際に、続柄欄に『夫（未届）、妻（未届）』と記載する取組。若者の心と体の健康相談を行う『ユースヘルスケアしながわほけんしつ』事業などを実施して参ります。

『基本目標Ⅱ　ジェンダー主流化体制の推進』では、ジェンダー主流化を本計画の中核として新たに据えているため基本目標自体が『ＮＥＷ』となっています。重点取組としては、『（１）ジェンダー視点による区政運営の推進』のために『①品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を実現するための条例の推進』に取り組みます。同じく重点施策『（３）ジェンダー視点に立った防災対策の推進』の『①ジェンダー視点に立った災害時対応』では、避難所の運営での男女のニーズの違いや、性的マイノリティ当事者への配慮。『②防災対策における女性等の参画拡大』では、計画や会議体、組織などの女性の参画の促進です。例えば令和７年度からしながわ防災学校に女性向けコース・女性防災リーダー育成コースをつくるなど、運営面への女性の参画推進などを重点取組として実施します。

『基本目標Ⅲ　あらゆる暴力の根絶と誰もが安心して暮らせる社会の整備』の『（１）配偶者等からの暴力の未然防止と被害者に対する包括的支援』は、「品川区配偶者暴力対策基本計画」に基づく内容になっており、その重点取組として『①配偶者等暴力の防止に向けた周知・啓発』を行い、ＤＶ相談等についての情報提供を定期的に行いながら、区民への講座や区職員への研修などで周知・啓発を進めています。また、若年層に向けたデートＤＶ防止の出前講座等にも取り組んでおり、学校での出前講座を実施します。同じく、基本目標Ⅲ『（３）困難な問題を抱える女性の支援』は、新たな取組『ＮＥＷ』としています。これは国により令和６年『困難な問題を抱える女性への支援に関する法律』が施行されたことに基づき策定している『品川区困難女性支援基本計画』です。基本目標Ⅲ『（４）生涯を通じた健康支援』の新たな取組『NEW』として、『①リプロダクティブ・ヘルス／ライツ（性と生殖に関する健康と権利）の啓発・支援』が挙げられており、これは啓発誌やパンフレット等による情報提供、また、講座やイベントなどにより正しい知識の周知等を行います。

『基本目標Ⅳ　女性活躍とエンパワーメントの支援、ワーク・ライフ・バランスの実現』の重点目標として『（２）女性の就労・起業・創業の機会拡大』の『②事業所等への働きやすい職場環境づくりの支援』や『（３）ワーク・ライフ・バランスの推進』の『②事業所等への支援・啓発』があり、誰もが就労や起業の機会を得られるよう事業所等へ魅力ある職場づくりなどへの支援助成として、雇用環境整備のためのコンサルティング費用の一部助成や、ワーク・ライフ・バランスに取り組む企業の取組紹介を行っています。こちらは『品川区女性活躍推進計画』の内容です。

このようなかたちで計画を推進することで、条例の基本理念を具現化し、また、庁内外においてジェンダー主流化を中核に据え、性別等にかかわらず誰もが自分らしく生きられるための取組を進めて参ります。説明は以上です。

■会長
　資料を見る時間を少しとらせていただいてよろしいでしょうか。１分後にまた再開します。
　本件について質問やご意見等ございましたら、挙手でご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。
　委員、よろしくお願いいたします。

■委員
　読んでわからなかったので質問させていただくのですが、１９ページ『①性の多様性に関する理解促進に向けた教育』に『１７　性の多様性に関する出前講座等の実施』とあり、『人権学習の一環として多様な性を理解するための講座を希望する区立小学校、中学校、義務教育学校に対して講師を派遣します』とあります。希望するということは、希望しないところもあるということだと思いますが、その辺のご説明をいただけるとありがたいなと思います。

■会長
　事務局いかがでしょうか。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　出前講座は、ご希望をいただいた学校に講師を派遣する取組で、毎年いくつかの学校にご希望をいただいて実施しています。
　出前講座の内容は、学校からこんな内容でやって欲しいというオーダーなどに基づき専門家の先生に対応していただいて実施しています。何年生の児童にわかりやすく、エピソードを入れて、などの要望を伺いながら、人権教育など様々な取組の中の一環として、もしくは広く知らせなければいけないからこの学年で必ず、というふうに、そのやり方や実施時期、内容については各学校が考えて取り組んでいます。
　毎年、校長会という校長先生たちの会議で出前講座について紹介し、学校での実施を呼びかけています。出前講座は性の多様性以外にも、デートＤＶ講座やアンコンシャス・バイアス講座なども実施してきました。１９ページの１７における出前講座は、性の多様性理解という項目に対する記載のため、他の出前講座については記載していませんが、その他の出前講座も紹介・実施しています。
　毎年やっていただいている学校もありますが、児童・生徒が様々な場面で知識をつけていただき、多様な性がある社会が普通であり当たり前であるという理解をしていける状況を知る機会をひとつでも多く持てるよう、今後も学校などへの呼びかけを続けてまいります。

■会長
　ありがとうございます。委員、よろしいでしょうか。

■委員
　ありがとうございます。
　今、ご回答いただきましたように、一律の内容でないということやそれを教える専門の人間が少ないということはもちろんあるかとは思いますが、私は、これ

は将来的にはすべての子どもたちに知っていただきたいことなので、言うなれば、希望というよりは義務として全校に進めていきたい。そのことによって、全ての子どもたちに理解してもらえるという姿がベストかなと思いましたので、質問をさせていただきました。
　今後、近い将来「希望するから性の多様性を理解する講座をやる」ではなく、このことを当たり前にみなさんが知っていくべきことだ、という流れにしたいなと、強く希望いたします。

■会長
　ご意見ありがとうございます。それでは他にご質問はいかがでしょうか。
　特に追加のご質問がないようでしたら「次第３、（２）令和８年度新規事業紹介」に移りたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　「（２）令和８年度新規事業紹介」について、こちらは所管課からご紹介いたします。ご質問等につきましては、すべての紹介後にお伺いいたします。
　【資料４】をご覧ください。１ページ目『ユースヘルスケアしながわほけんしつの拡充～正しい性の知識で若者の不安を安心に～』について子ども育成課長より紹介をお願いいたします。

■事務局（子ども育成課長）
　子ども育成課長でございます。
　私からは『ユースヘルスケアしながわほけんしつの拡充』についてご説明をいたします。
　本事業は、若者の心と体の健康相談事業ということで、令和６年度に若者たちのセンシティブな相談に対応するためにスタートしたもので、今年で３年目を迎えます。
　事業概要といたしましては、お手元の資料下段の枠囲いの中にございますように、既存事業としては週５回のチャット相談やオンラインによる対面相談、また児童センターを会場として小中学生を対象に対面相談会を実施しています。
　そして今年度からは、新規事業、さらに事業を拡充するということで、対面相談イベントを実施いたします。内容としては、人間関係やジェンダー理解を含む性の知識の普及・啓発を実施するもので、これまでの児童センターから会場を移し、若者が気軽に集える場所で、主に高校生から大学生等を対象に実施いたします。実施回数は年４回程度を予定しておりますが、ちょうど昨日、第１回のイベントが開催され、約２５名の方にお越しいただきまして盛況のうちに終えることができました。
　区といたしましては、引き続き、チャット相談やイベントの開催を通じて、子どもたちの心と体の健康の向上に取り組んで参ります。
　私からの説明は以上です。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　次に、２ページ『すべてのＡＥＤに三角巾を追加配備～安心して救命活動が行

える環境整備～』について、健康課庶務係長、ご紹介をお願いします。

■事務局（健康課庶務係長）
　健康課よりＡＥＤへの三角巾配備についてご説明をさせていただきます。
　ＡＥＤは心停止の際に迅速に使用し、電気ショックを与えることにより、生存率の向上を図ることができる医療機器で、一般市民の方でも使用ができるものになっております。区ではこれまで、区有施設をはじめコンビニ業者と協定を結び、区内の一部店舗へＡＥＤを配備しており、区民が使用しやすい環境整備を進めてまいりました。
　こういった機器の配備が充実する一方で、背景・目的にも書かせていただいておりますが、ＡＥＤを使用する際に衣服を脱がせる抵抗感などから、使用に男女差が生じているということが大学の研究でも明らかになっており、課題となっておりました。このような状況を受け、区といたしまして女性等へのプライバシー保護に加え、使用者の方の心理的なハードルを下げるということを目的に、今年度、区が配備している全てのＡＥＤに三角巾を新たに配備することといたしました。現在、順次配備を進めておりまして、来月８月には全機器に配備を完了する予定で、現在進めております。
　また、この三角巾に関しましてはＡＥＤのケースの中に格納されておりまして、プライバシーの保護だけではなく、資料にも記載しておりますが、止血や固定といった応急手当にも使用できます。そういった使用方法も含めたチラシも同封させていただいております。なお、実際に導入している三角巾は、この資料上では白色になっておりますが、透けにくいようにということでオレンジ色のものを配備しています。
　最も重要なことは救命措置をいかに早期に実施するかということになりますので、引き続き区といたしましても、機器の配備だけではなく、使用者が使いやすくなるような環境整備もあわせて進めてまいりたいと思います。
　健康課からの説明は以上になります。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　３ページ『男性専用の相談事業を新たにスタート～悩みを抱える男性をサポート～』につきまして説明させていただきます。
　今年度からの新たな相談事業として、男性の専門相談員による男性相談を始めました。今までも相談事業としては、ジェンダー平等推進センターで女性相談員によるカウンセリング相談等の相談事業を行ってきておりました。これらの相談では今までも、性別によらず、女性相談員による相談ではありますが、男性からの相談を受けてきたところではあります。ただ男性は相談件数自体も少なく他人に自分の弱みになるような相談をしづらい状況があるともいわれ、また、男性の自殺率が高いという結果も出ております。そういったことも鑑み、男性の相談員による男性のための相談という形で打ち出して、新たに男性のための相談事業を設けました。
　様々な会合などでも、男性はなかなか他者に相談をすることができない、またひとりで抱え込みやすいという話を伺います。男性が相談しやすい状況を作り、悩みを１人で抱え込まないように、そして必要な支援があれば繋げていけるようにしていくための相談です。

男性相談は月１回、１人５０分間の電話または面接相談で、面接の場合のみ予約制です。広報紙やホームページ、ＳＮＳ、あと、まちの会議等で民生委員さんなどへご紹介をさせていただいております。実績としては、３ヶ月で１件です。引き続き、周知に取り組んで参ります。

次に４ページ『ストーカー・ＤＶから身を守るための防犯対策の強化』について、生活安全担当課長、ご紹介をお願いいたします。

■事務局（生活安全担当課長）

生活安全担当から説明させていただきます。

４ページ『ストーカー・ＤＶから身を守るための防犯対策の強化』の資料をご覧ください。

背景・目的については、記載の通りです。昨今、神戸や川崎での痛ましい事件が続くなど深刻化するストーカー・ＤＶ被害が社会問題化をしていることは論を待たないと思っております。

統計上の数字で恐縮ですが、令和７年に警視庁に寄せられたＤＶ相談の件数は、特にＤＶ相談について９万３，０００件まで増加し、被害者における女性の割合も７６．８％と非常に高くなっています。一方で品川区におきましても、女性相談の件数は、令和７年度にも増加傾向となっておりまして、区内においてもそういった対策についての必要性が高まっていると感じております。

そこで区におきましては、身体的・精神的なものを含むＤＶ、それからストーカーといった相談のうち、いわゆる生命や身体に危害が及ぶ事案は警察やシェルターで対応する必要がございますが、その外周といいますか、そこまでに至らない事案に対して、資料中段の『POINT』に記載されている３つの対策を始めました。本日は時間の都合上、被害者の宿泊費助成、加害者更生プログラムの受講助成、この２つについてご説明をさせていただきます。

これらの事業の特徴は区だけでなく、区内の警察署に相談をした方、性別を問わず、また被害者だけでなく加害者の区民も対象にしております。ストーカーに加え、ＤＶの中には高齢者の虐待、障害者への虐待、児童への虐待を明確に盛り込んでいる事業となり、これらの対策については２３区初の事業となっています。

１つ目の宿泊助成ですが、いわゆるＤＶやストーカーでお悩みの区民の方が一時的にホテルなどに避難が必要と認められた場合には、１泊１万円、最長２１泊までを上限に宿泊費を助成するものです。

２つ目の加害者更生プログラムの費用助成は、加害者とはありますが被害者も参加できるようになっています。医療機関、ＮＰＯ団体などのカウンセリングやグループワークなどに参加した場合に、１回１万２０００円、１０回までを助成するものです。こういったストーカーやＤＶ事案の再犯を防ぐためには、加害者の更生プログラムが有効とされていますが参加率の低さが懸念されているというところで、区としては被害者支援の一環という観点で助成を行ってまいります。

これまで、宿泊費助成については４件・５名の方が助成を受けており、加害者の更生プログラムについては１名の方が参加しております。いずれも被害者の方については年齢が２０歳から３０歳程度と、かなり若い方が参加されているのが特徴となっております。以上です。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）

５ページ『子供の心と体を守るために正しい知識を保護者へ　リプロダクティブ・ヘルス／ライツの理解促進』につきまして、人権・ジェンダー平等推進課より説明いたします。

家庭で子どもに対してプライベートゾーンについて話ができるよう、保護者向けのワークショップの実施と、プライベートゾーン周知用に絵本形式のリーフレットを作成し、区の３歳児健診で配布するという事業です。家庭では、なかなか性教育や性の話をするのが難しいというところもあり、ワークショップやリーフレットをきっかけに家庭でも話をしていただければというところと、今後子どもたちが性被害にあわないように、そういったことについての理解のきっかけとできるような内容にしています。プライベートゾーンの話をきっかけに、その後も成長段階に合わせてお話をするようにしていただければとも思います。配布の機会としては、３歳児健診で配布することで、区内にお住まいの３歳に配布することができるということ。また、配布したからといって３歳で必ず読まなければならないということではなく、ご家庭の様子やお子さんの成長、興味によって、うまく使っていただければと考えています。

ワークショップは８月から区内２ヶ所で実施し、各回２０名、未就学児は同伴可能として、現在参加者を募集しております。

次に６ページ『女性ＩＴエンジニア育成により区内企業の人手不足解消支援』について、地域産業振興課長、ご紹介をお願いします。

■事務局（地域産業振興課長）

地域産業振興課の事業をご説明させていただきます。

こちらの事業名は『しながわ女性高度ＩＴ人材育成事業』ということで、女性のキャリア形成支援と区内企業の人材不足解消を目的に実施するものです。現在、区内企業、とりわけＩＴ分野においては人材不足が深刻化している状況です。その一方、ＩＴエンジニアとして働く女性の割合が依然として低い状況があります。そこで本事業は、出産や子育て等を機に離職された方や非正規雇用で働く女性の皆様を対象に、ＩＴスキルの習得から就職までを一体的に支援する事業としております。具体的には、キャリアセミナーやプログラミング体験のワークショップを通じてＩＴ分野への関心を高めていただくというところと、国のリスキリング支援制度等に区独自の上乗せ助成を行うことで受講者の自己負担を最大で実質ゼロとすることで学び直しに取り組みやすい環境を整えるというものです。さらに、区内ＩＴ企業でのインターンシップや就職マッチング支援を実施して、習得したスキルを実際の就業につなげていくことをねらいとしているところでございます。本事業は、女性が能力を発揮しながら多様な働き方を選択できる環境づくりを進めるとともに、区内企業の人材確保にも寄与する取組です。着実に、事業を実施して参ります。説明は以上です。

■事務局

以上で、令和８年度新規事業の紹介は終わります。

■会長（人権・ジェンダー平等推進課長）
　ご説明ありがとうございました。
　６件ご説明をいただきましたが、どの件からでも構いませんのでご質問やご意見等ございましたら、挙手をお願いいたします。
　委員お願いいたします。

■委員
　ご説明ありがとうございました。
　前提部分の質問になるのですが、こちらはプレス発表資料から抜粋をしたものと認識していますが、このプレス資料が主に使われる場面と、このプレス資料を出すまでの資料確認フローを教えていただくことはできますでしょうか。この表現にしよう、というようなことや、このイラストにしようというところがどういう会議体で決められたのかということを、外側の話で恐縮なのですが教えていただけると嬉しいです。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　この資料は、今年の２月に実施した令和８年度予算について説明したプレス発表用資料の抜粋です。
　これらの資料は、基本的にはまず取り組む所管が作成し、それについて他の課と表現を合わせよう、わかりやすいよう説明やイラストを加える、関連する課へ表現の確認を出すなどの話し合いがあった上で作成された内容になります。

■委員
　今のご説明を踏まえ、また今日お配りいただいている資料とホームページ上に公開されている全資料も含めてのコメントになります。
　ジェンダー主流化ということを考えたとき、また資料が世の中に出されるときにも、ジェンダー平等等についての配慮がされているかどうかのチェックを行うということがなされると素敵だろうと思っています。
　具体的には例えばこの１ページ目『ユースヘルスケアしながわほけんしつ』のイベントイメージのイラストのところ、フリー素材が使われてらっしゃるかと思うのですがこの人物表現ですとか、５ページも同じく読み聞かせをしている家族のというのがイラストで示されていると思うのですが、こういった画像を使うときに、それらがジェンダーの固定的なイメージを表したものになっていないかどうか、ということを確認するフローを持っていると、より望ましいのではないかと思った次第です。
　拝見しておりますと、全資料に載っているイラストのなかには、ジェンダーニュートラルな表現になるフリー素材を選んでいるページもあるようですが、逆に他のページでもイラスト屋さんを使っていて、スカートの女の子とズボンの男の子というふうに見られるようないわゆる固定的なジェンダー表現になっているページなどもあり、表現についてページによるばらつきが現状あるなと思いました。それぞれの所管が出されたものに対してどのようにコメントを返すかという難しさもあるとは思いますが、やはりそこは、ジェンダー主流化を担う私たちがすべきことではないかと、この場で確認しておけるといいなと思ったのでコメントさせていただきます。

もう１つ同じ形で、これは表現で気になったというコメントをさせてください。

３ページ目の男性専用の相談事業についてのところです。取組としてはとても必要なことだと思いますし、利用の実績もあったということで、これからの周知に、私も努めてまいりたいなと思っております。

その上で、この背景・目的のところなどを含めて、男性は困りごと等を抱え込みやすい傾向があると書かれています。確かにそのように書ける部分もあるのかもしれませんが、場合によっては男性という人たちはそういう傾向を内面的に持つものである、というふうにもとらえられかねない表現であるという点で気になりました。それは、この男性が相談をしにくい状況を社会構造が作っているのだということを考えたときに、１人で抱え込ませてしまっているのは社会側であるという点を、誤解なく伝えられる表現になると素敵かなと思うので、今後、周知をされる際の表現として、ぜひご検討いただけますと幸いです。一旦、以上です。

■会長

委員、貴重なご意見ありがとうございました。事務局、どうぞ。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）

ご意見ありがとうございます。

確かに、イラストや説明の表現については、チラシ作成や周知する際の表現についても、今後、全庁で取り組んでいかなければならないところになります。そちらについては内部からも発信をしていければと思っております。また、男性相談は私のところの所管になっており、他の女性相談、性的マイノリティの相談を実施してきたなかで、男性への相談がないという相談環境をカバーするために検討して設置したという経緯はあります。ただ、確かに性別によりそのような特性があるということではなく、時代的背景なども含め弱さを出しにくい傾向にあるという、そういったところまではなかなか読み取れない文章になっているということについては、今後、気をつけて取り組んで参りたいと考えております。貴重なご意見を、ありがとうございました。

■会長

ちょうど計画の中にもメディア・リテラシーという言葉が入っています。区側はむしろ発信するメディア側なので、メディア・リテラシーを少し高めていくような取組も必要かなというところですね。ありがとうございます。

その他、何かご質問はいかがでしょうか。委員、どうぞ。

■委員

新規事業についての説明がとてもわかりやすかったので、せっかくですから推進計画１０ページの計画の体系図のところのどこを重点的にピックアップしてこの事業を始めました、というのがわかると、まだここの部分はやってないのかしらみたいのがわかりやすいかなと思ったので、対応していただけるとすごくいいかなと思いました。

あと４ページのストーカー・DV の取組は確かニュースでもやっていて、２３

区初は、私もすごく耳に入っていて、こういうものを取り上げることは大事ですよねと思いました。
　そういう意味でも、事業としてあまり反映できていないものについて何かこちらでも提案できるような形にしてもらうとありがたいので、少し視覚化していただけると助かります。以上です。

■会長
　ご意見ありがとうございます。委員お願いします。

■委員
　ちょっとイメージがつかなかったので教えていただきたいのですが、若者の心と体の健康相談事業のところで、ちょっと微妙な、相談にも配慮が必要な内容なのかなと思うのですが、これはイベントとして高校生や大学生同士が話し合うイベントというイメージなのでしょうか。それとも個別相談のようなかたちで悩みを相談する側と、それを受ける側がいるイメージか、教えていただきたい。

■事務局（子ども育成課長）
　新規事業の実施イメージですが、ヘルスケアに関するブースを用意して、そちらに事業者、相談者を受ける人がいて、そこを巡りながら自分が相談したいものを気軽に相談できる場として作っています。

■委員
　イベントというと、みんなで何か盛り上がっているのかなというイメージになっていました。そういうことですね、わかりました。

■事務局（子ども育成課長）
　みなさんがお越しになりやすいよう、いろんなメニューを用意していまして、心と体の相談コーナーでも、ハーブティーや体にやさしいお菓子、アロマハンドマッサージなど、いろんなメニューをご用意して、ご自身の行きたいブースを巡っていただくというようなかんじです。

■委員
　わかりました、ありがとうございます。
　あと、ＩＴエンジニア育成によりという話ですが、これは何年目かの事業なのでしょうか。

■事務局（地域産業振興課長）
　こういった形で実施するのは１年目の事業です。昨年度も女性を対象にしたＩＴの
事業を行ってきたのですが、今回はもっと取っ掛かりのところの IT を学ぶセミナーや講座受講料の助成から就職まで、すべてをつなげるという一気通貫の形で女性の皆さんの就職を支援していく。そして、企業の人材確保を叶える事業ということで、リニューアルした形で１年目というところでございます。

■委員
　女性のライフステージって、出産・育児で変わるじゃないですか。例えば妊娠時期にこれを見つけて、これ私やってみたいと思って数年するとこの事業がなくなる。結構、私楽しみにしていたのになくなってしまったという経験があったので、こういうのは周知も必要でしょうし、できるだけ続けていただきたいなという希望があって、お伝えしました。
　あともう１つ、細かいことなのですが、AED の話の三角巾配布についてです。私が知っているところにも三角巾が届きまして、入れようとしたら入れ物が閉まらなくなってしまったのですが、これって閉まるのでしょうかという、ちょっと細かい質問です。一生懸命やれば閉まりますか？

■事務局（健康課庶務係長）
　健康課よりお答えをさせていただきます。
　シミュレーションもさせていただいておりまして、ＡＥＤ機器自体を包み込むバッグの中に、はさみや取扱説明書を入れられるところがあって、三角巾を含めても十分スペースはあるなというのを事前確認の上でやってはいるのですが、もしやってみて個別に何かご相談等あれば、健康課の方までお問い合わせいただければと思います。

■委員
　ちょっと頑張ってみます。ありがとうございました。

■会長
　ありがとうございます。事務局お願いします。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　ちょっと「しなわかカフェ」の補足になります。今回、中高生や大学生を対象にした新規事業として実施していますが、もともと令和６年度から児童センターをめぐりながら、今回より対象年齢が低い小中学生くらいを対象にして、事業者が子どもたちにいろんな遊び方を提案したりしながら相談事があれば相談できますよという自然な流れで相談を受けられる取り組みをしています。新規事業は、もう少し上の年代にアプローチするために、昨日実施したところは、少し違う雰囲気の場所で、ハーブティーを飲みながら、お友達と誘い合わせながら来られるのではないかと工夫して募集したところ、２０人以上集まったというふうに聞いております。

■会長
　その他ご質問・ご意見等、ございますか。委員お願いいたします。

■委員
　ＳＲＨＲに関することで取り上げていただいて、ありがたいなと思っています。
　３つあります。まず１つは『子どもの心と体を守るために、正しい知識を保護者へ　リプロダクティブ・ヘルス／ライツの理解促進事業』に関して、３歳児健

診のときから絵本型のリーフレットを配布されるということで、とてもすばらしい取組だなと思います。現在の学習指導要領には、はどめ規定というものが残っていまして、性教育が学校教育の中でなかなか取り込みづらいというふうに日本ではされておりますけれども、でもユネスコなど国際的な基準の性教育では子どもが幼いころから繰り返しやることが重要とされていますので、まさにこういった、３歳というとても年少のときから始めるというのは素晴らしい取組かなと思っております。

同時に、こちらは親御さんへの性教育の情報伝達ということで、親の世代もまた性教育を受けずに育ってきた世代かと思います。日本で意図しない妊娠をする人口が一番多いのは２０代から４０代ということもあります。そういった親御さんにとっても役立つものになるのかなということでも、とても素晴らしい取組かなと思います。

もちろん子どものための情報提供の機会なのですが、親のためにも、今後、自分で選択をしていくという意味で、親向けの情報もリーフレットと同時に提供することができるとより価値あるものになるのかなと思います。

この活動自体の目的というのは、子どもが自分で性暴力に気づけるような内容になるのかなと思っています。そうすると、別の取組である『ストーカー・ＤＶから身を守るための防犯対策の強化』というところに繋がってくる。ストーカーの被害者、ＤＶの被害者の方は、自分が受けていることが暴力であるということに気がつかない。それは学校教育の中で性教育をきちんと受けてこられなかった、日々の生活の中で自分が尊重された経験がなかった。そういった性と健康に関する学びや、自分と他者を尊重するとはどういうことかということを、教育を通して学んでなかったということもひとつの要因であるのかなと思います。同時にこういった取組をされることで、先ほども人生を通じた女性の権利についてのお話がありましたが、あらゆるライフステージを通じて自分を守るというところにも通じるのかなと思いますので、ぜひ続けていただきたいです。

『ストーカー・ＤＶ事案から身を守るための防犯対策事業』に関してはもう１点、もし可能であれば、防犯、予防ということではなく、そもそも暴力をなくす取組というものができないものかと思っています。防犯、なくすということを考えると、やはり性教育が必要になってくるというところにもう１回戻ってくる。他者と自分の関係性をどう健康的に構築していくかというようなことを学ぶ必要があるかなというところに戻ってくるのです。そうすると１ページ目の「しなわかカフェ」の活動がとっても重要になってくる。若年層のうちから、ちょっと大きくなって高校生・大学生の世代に至るまで、こういった施策がなされるということは、本当に若いときから一気通貫して、ＳＲＨＲ、性と生殖に関する健康と権利にまつわる情報だったり知識だったりの提供先ができるということなので、この３つ揃って、とても素晴らしい取組だと思っています。ぜひ、長く継続していただきたいなと思います。

同時に性教育の充実の方も、学校教育の中でこれまで出てきた話題だと、出前講座や、年に何回かユースが自分から行く場を設ける、であったり、あるいは３歳児健診のときという、単発でポツポツ、点々での施策が多いのかなと思います。誰もが継続して定期的に受けられる、学べるという意味では、学校教育の中に取り込んでいくということが一番重要です。学校教育に取り込むという意味では性教育について様々なご意見があるともお伺いしていますが、取組は増えてき

ているのかなというふうに思います。私どもの団体では宮崎市と連携協定を結びまして、包括的性教育の実施支援ということを行っていくというケースもあります。ぜひ、そうした自治体の中から充実した性教育を行っていくという機会がもっと増えていくと、品川区はまさにこういったすばらしい条例、ジェンダー平等と性の多様性という条例を持っているところですので、ぜひリーダーシップを取っていただけたらなという願いを込めて発言させていただきました。

■会長
ご発言ありがとうございます。はい、お願いいたします。

■事務局（教育総合支援センター長）
教育総合支援センター長です。貴重なご意見ありがとうございます。
子どもたちが性を学ぶ。その前に、まずは前提として、お互いに自分の大切さ、相手の大切さ、こういったものを人権教育として確実に学んでいく。これは今現在も各小・中学校、義務教育の段階で、品川区であれば市民科や保健体育といったところで、子どもたちが学習をしているところであります。あわせて、直接的に性教育ということではないのですが、今お伝えした性被害にも加害にもならないという取組、そして自分自身と相手を大切にするという取組で、文科省から出されている「命の安全教育」について、各校で確実に進めております。
ご指摘のあったように、学習指導要領のはどめ規定のところに関わる取組になりますけども、希望校においては学習の内容を超える内容が入ってきますので、希望する学校の中でも子どもたち、そして保護者に参加の意思を確認しながら学習を進めているというのが、今の実態であります。こういった取組を確実に進めながら、今ご指摘があったところを子どもたちが発達段階に応じてしっかり学んでいけるようにサポートしていきたいなと考えております。以上です。

■会長
ありがとうございます。次、お願いいたします。

■事務局（生活安全担当課長）
生活安全担当です。
『ストーカー・ＤＶから身を守る防犯対策』へのご質問をありがとうございます。今ご指摘ありましたように、資料の４ページの一番下に書いてあるのですが、学校と連携して様々な防犯教室を開催するということについてです。
そもそもこういったストーカーやＤＶを防ぐ対策ということでご質問がありましたけれども、先般７月１５日に区内の女子中高等学校に赴き、性被害の防止、デートDV 被害対策ということで、防犯という切り口でありますけど、防犯対策、防犯教室を実施しました。そういった対策を、今後も防犯という観点から進めていきたいと思いますし、区としてはジェンダーの部署もあります。そういったところと連携しながら今後も取り組んでまいりたいと思います。よろしくお願いします。

■会長

ありがとうございます。
それでは、質問が尽きないところではあるのですが、次の議題「推進状況評価」が、この推進会議でとても重要な部分になるかと思いますので少し時間をとりたいと思います。
「４．調査及び審議、（１）令和７年度推進状況評価について」、事務局よりご説明をお願いいたします。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
資料５－１をご覧ください。
今年度「品川区ジェンダー平等と性の多様性を尊重し合う社会を実現するための計画の令和７年度推進状況評価」を実施いたします。
「１　令和７年度推進状況評価」にありますとおり、条例第１０条５項 推進計画に基づくジェンダー平等社会推進施策の令和７年度事業について、推進状況調査を実施します。これは計画の取組状況等について、全事業の進捗を調査するという内容です。全庁調査により推進状況報告書を作成し、推進会議に報告。推進会議で委員の皆様からの意見聴取した内容を記載したうえで、令和７年度進捗状況調査報告書として公表いたします。
令和７年度の評価は、昨年度末に策定した推進計画に基づき実施します。本来令和７年度は前の計画期間にあたるため、旧計画に基づいた評価をすることになるのですが、今回は新たな計画が既にありますので、令和７年度評価につきましては、今の計画に基づいた内容で調査と評価をさせていただきます。
「２．推進状況報告・評価方法について」です。資料５－２と５－３をご覧ください。
まず指標について各所管が作成する評価方法は、資料５－２の通りです。この指標というのが何かというと、例えば計画の１３ページ、『基本目標１（１）ジェンダー平等意識の醸成』の右側にある、こちらが指標となっております。令和６年度の現況と令和１２年度の目標値があり、それに対して令和７年度がどのような状況であったかというのを確認していくものになります。資料５－２にはイメージ・例として、人権ジェンダー平等推進課が所管している事業についてピックアップして記載しています。毎年の結果の数値を掲載し、指標に対する達成状況や実施内容を記載します。計画の指標は全部で６８件です。
取組状況について各所管が作成する事業ごとの評価方法は、資料５－３で評価をいたします。この事業の取組というのが何かというと、例えば１４ページをご覧ください。表の左側に１から順番に番号を振っています。これが事業番号となっていて、事業番号は全部で２４１件です。その事業について、内容を確認していきます。資料５－３を見ていただくと事業名と内容が書いてあり、その下に所管評価「Ａ」「◎」と書いてあります。事業全体の取組の実施状況について、「Ａ」から「Ｄ」まで評価をしていくもので、例えば当初の予定通り実施できたものについては「Ａ」、実施できなかったものは「Ｄ」という評価内容について、右側の実施内容について記載をしていきます。次に計画達成度が何かというと、「◎」から「×」まで評価をします。こちらは計画の達成度を測るもので、事業自体がジェンダー平等と性の多様性尊重という視点から見て評価できる内容かどうか、十分評価できる内容であれば「◎」、評価できない内容であれば「×」となります。事業としては、例えば何かのイベントを実施したときにたく

さんの人が来て昨年度よりもかなり多くの参加者となったが、参加者に偏りがあり、計画達成度としてジェンダー平等と性の多様性尊重という観点からすると、もう少し工夫ができたのではないかということで「△」になるというような評価のずれが出てくる可能性はあります。ジェンダー平等と性の多様性の計画についての評価として、この二方向から評価をしていこうと考えております。

推進委員の皆様には、各所管が実施した指標と取組評価について事務局が取りまとめをし、特に差があったり前年度と変わったものについてわかるように記載をしたものを皆様にお見せします。報告内容は事務局で一旦作成し、委員の皆様からいただいたご意見を含め、推進会議の評価として報告書に掲載をしたいというふうに考えております。

作成する報告書の構成は資料５－１「３　進捗状況評価報告書構成」にある内容で考えております。順番が変わるなどはあるかもしれませんが「（１）令和７年度推進状況評価について」の計画概要や、推進状況評価の方法について記載し、次にはこの計画の体系について説明。「（３）指標に対する推進状況」は、先ほどの５－２の部分。「（４）事業の取組に関する推進状況および所管評価」は、５－３の内容になります。

皆様にやっていただくのは、「（５）推進委員評価」です。次の「（６）資料」では、審議会等における女性の参画状況などの数値報告をさせていただくことを考えております。

皆様には各所管からの数値や評価が出されていない資料の時点ではわかりづらいところも多々あるかと思いますが、事務局としてはこのような内容で作成をしていこうと考えております。ご意見等ございましたら、いただければと思います。私からは以上です。

■会長

ご説明ありがとうございました。

今ご説明をいただきました推進状況の評価について、先に一点だけ確認させていただきたいのですが、７ページ目にある計画の期間の中に進捗状況評価について記載されていませんが、これはどこに位置付けられるのでしょうか。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）

本来であれば令和８年度のところに進捗評価の記載が必要だったのですが、今回の進捗確認は、本来は令和７年度評価というのは前の計画に基づくものということで、進捗状況調査の対象ではないということで掲載しませんでした。ただ、新しい計画ができ上がっている状態で、昨年度分に関しては、今ある計画に基づいた推進状況の評価をする、と決めて、実施するとしております。

■会長

ありがとうございます。この進捗確認の一環というような位置付けになるから、ということですね。ありがとうございます。

先に質問してしまいましたが、委員の皆さんからのご質問、ご意見等、いかがでしょうか。

委員お願いいたします。

■委員
　質問なのですが、資料５－２の最初にある評価の表のところです。これは区民意識調査をしたときに結果がわかるということは、次回の意識調査がある５年後に数値が入るということですよね。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　はい、確かに指標としての「（１）ジェンダー平等意識の醸成」については、５年ごとの区民意識調査を行った結果の数値が記載されます。よって、この結果の数値が次にわかるのは５年後です。指標になっているものの中には、（１）のように毎年は推進状況がわからないものもあります。毎年実施している事業が主なので、ほとんどの指標は毎年数値等を記載することができます。ただ、たまにこの（１）のような数年に１回しか数値が取れないものが入ってくる可能性はあります。

■会長
　ありがとうございます。委員よろしいでしょうか。

■委員
　はい、わかりました。

■会長
　その他ご質問、ご意見等いかがでしょうか。委員お願いいたします。

■委員
　ご説明ありがとうございました。
　リクエストといいますか、お願いでございます。評価、と書かれると、つい、できたこと・よかったことを書かねばならぬような思考に私はなってしまうことがあるのですが、評価をするのは、目標に向けて次の取組を考えるためだと思いますので、特に計画の達成度が低いものに関しては、何が難しかったと所管の方は思ってらっしゃるかとか、どこに課題があると今のところ考えられるかといったような課題感についても、ぜひ率直に書いていただけると、次の会議で皆さんからの知恵が集まりやすくなるのではないかなと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

■会長
　ご意見ありがとうございます。事務局、お願いします。

■事務局
　調査をするときに、今のご意見についてもお伝えした上で、達成できなかったものについても、理由や次への対策のようなものもあるのかということについても記載していただけるように工夫できればと思います。

■会長
　ありがとうございます。何か今後の目標みたいなものを書く欄があったりする

といいかもしれないですね。その他ご質問、ご意見等いかがでしょうか。
委員、お願いします。

■委員
急な対応案件で、到着が遅れまして大変失礼しました。
何人かの方もおっしゃっていましたが、私も４年前から始まりました、この条例を制定するための専門会議から参加させていただいております。３年前に条例ができ、それをどういうふうに実行していくかということを決める計画ができ、それをさらに確認しつつ進めていくという、このフェーズにきたことに、ここまで来たのかという感慨を持って聞いておりました。けれども私はずっと申し上げているのですが、こういうものは特に行政だと、そして日本社会全体的にそう言えるのかもしれません。『やってる感症候群』と私は呼んでいますが、本当の効果や広がりというよりも『やってる感』を出すことが重要な社会だったりするじゃないですか。
そんな中であっても、本当に、特に行政はそういうところにぐっと流されそうになるところを、ここにせっかく作った条例があるのでしっかりやっていこうねということを確認し合っているところだと思うんです。皆さん、本当に努力に頭が下がりますし、その上でお願いしたいことでいうと、効果がきちんとあるかということを、ちゃんと確認した方がいいと思います。
ここでちょっと話が大きくなってしまうのですが、品川区ってどういう区なんだろうということを考えるときに、例えば子育て指標においては、全国１位であるという評価を、あるマスメディアの評価が広がっているという事実はあります。
では、この条例や社会推進会議の目的が何かというと、煎じ詰めて言うとやはりジェンダー平等あるいは性の多様性というものに、品川区はやさしい、品川区は全国の自治体で一番ですという評価が名実ともにできるという状態が、事実として発言することがおそらく、一番理想的なのだと、私は思っています。
それで言うと、この評価をどうするかが難しいのですが、例えば【資料５－２】の指標にある「人権・ジェンダー平等に関わる意識調査」は５年ごとに実施するとなると、次の実施は令和１１年度です。あるいは施策『（３）共生社会の理解促進と支援』にある指標で示されている児童・生徒アンケートは３年ごとの実施となっているので、令和５年の調査の次は令和８年ですよね。
つまり、今年度は何も調査等が行われないという割とふわっとした状態の中で、施策「（２）多様な性のあり方に対する理解促進と支援」の項目にあるのは具体的な利用頻度で、問い合わせ件数とかでできる。これが『やってる感』じゃないですか。とはいえ、意識調査やアンケートを毎年してくださいと言いたいわけではなく、客観的な評価の軸みたいなものを持つことが、皆さんの仕事のモチベーションや品川区という対外的なＰＲになる。品川区、大田区、港区、目黒区のどこに住もうかとなったときに、品川区ってなんだか住みやすいよねという評価が広がっていくことこそが、おそらくは一番実は意味があると、私は思っています。ひいては、それが区民のメリットにも繋がっていくと思っているので、そこのところのグランドデザインというか評価軸の客観的な方法を考えるのは、区長室の担当かはわかりませんが、区長と一緒になってそういうＰＲをしていくことは、すごく重要になるのではないかと思いました。

今、３つのＡＩに「全国の自治体で、女性、男女、ジェンダー平等、性の多様性という意味において、あるいは外国人において、一番やさしい自治体はどこですか」と聞いてみました。そうするとだいたい出てくるのは世田谷区、渋谷区で、これはたぶん同性パートナーシップをいち早く手掛けたという派手な施策が寄与していると思います。ほかには川崎市、横浜市が出てくる。そこで品川区はどうかと聞くと、その次のグループになるが、しっかりやっている区です、というよう評価は、３つのＡＩから共通しています。

たしか、条例を制定したときに、これは委員の中でも意見が分かれたところではあったと思いますが、「ジェンダー平等」という言葉を入れたことで、遅れていた条例制定状況の中で、ある種、フロントランナーのグループに品川区は出たと言っていいと思います。それを本当に確固たるものにしていく、そのための会議体であり、そのためのみなさまのお仕事だと思うので、そういうことに繋がるような提案を、この会議体としてもできればいいなと、思いを新たにした次第でございます。

■会長

ありがとうございます。事務局の方から何かありますでしょうか。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）

委員、ありがとうございました。

条例制定時の資料を読ませていただいて、いろんな思いを経てこの条例名になったのだなというところと、あとやはり「ジェンダー平等」という言葉を使うこと自体にすごく意味があると思っています。今、２３区の会議や、民間の方とご一緒した際に、名刺交換や会議資料にある私の肩書の人権・ジェンダー平等推進課というのを見て、品川区はジェンダー平等をやっていますよねという評価をいただいているところで、人々のなかにも「ジェンダー平等」という言葉の大きさや広がり、可能性を感じるようなところがあると考えています。

私たちも日々、いろいろな面でアピールや理解に繋がるよう考えながら実施しているところですが、ぜひ委員の皆様にも、今後の計画の推進についてご意見等いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

■会長

私も今回初めて、品川区の計画やいろいろな取り組みの歴史を勉強させていただいた中で、この計画が「実現するための計画」という、いわゆる結果責任を最終的な目標にしているというところにすごくやる気を感じている部分はあります。推進と言いつつ、結果責任を実現するっていうところを目指している計画ですので、この推進会議の方からもいろいろな建設的な提案ができていければなと思っています。

それでは続きまして次第「５．その他」に移ります。事務局、お願いいたします。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）

皆様には第２回推進会議の日程について調整をさせていただいており、本日お

伝えできればと考えておりましたが、まだ調整が終わっておりません。わかり次第、すぐご連絡をさせていただくようにいたします。
　次回の日程につきましては１１月になる予定です。第２回の会議では、本日の説明にありました通り、評価についてのご意見をいただく回になると思います。こちらの資料もでき上がり次第、一旦皆様に見ていただけるようにお届けしたいと思います。以上です。

■会長
　はい、ありがとうございます。
　それでは、今の件について何かご質問とかはよろしいでしょうか。
　１１月であることは確実ですか。

■事務局
　１１月にやろうと思っております。

■会長
　ありがとうございます。
　少し時間がありますので、今日の内容でなにか発言、質問をしたいという方がいらっしゃいましたらいかがでしょうか。
　委員お願いいたします。

■委員
　バックスピンしちゃうのですが、新規事業案件の中で、この２３区初という赤いリボンがつけられた「ストーカー・ＤＶから身を守る防犯対策強化」に、区がこれだけコミットしたのは大変すばらしいなと思って伺っていたのですが、こういう情報のＰＲを、もっとやった方がいいと思います。そのあたり、当然区長は発信力がある方でもあるというところがありつつ、全体的なＰＲの話に繋がるのですが、何か考えていらっしゃる広報の強化案などあれば伺えればと思います。

■会長
　事務局の方いかがでしょうか。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　区長が毎年のプレス発表や区長記者会見の機会に、２３区初や全国初という取組を報告させていただいています。
　昨年、夏休みに合わせて子どものいる家庭にお米を配った事業は、ＡＩを使ってニーズを把握したことも報道で取り上げられていました。

■区長室長
　区長室長です。私は戦略広報課も所管しておりますので、私からお伝えさせていただきます。
　基本的に区長記者会見と広報紙・ＳＮＳが前提で、品川区はホームページがちょっと使いにくいと言われていまして、今年はホームページを１０月末に大幅リニューアルオープンするよう進めています。

逆に、効果的なＰＲ方法があれば教えていただければと思います。

■会長
委員お願いします。

■委員
ご指名いただいたので、ふっと浮かんだことを思いつきで言わせていただきますが、各予算を１割削ると数百万円できると思います。その予算を使って、すごく影響力のある方に発信してもらう契約をする。それが多分一番強いと思います。影響力のあるＹｏｕＴｕｂｅｒに品川区でやってもらう。

■事務局（地域産業振興課長）
やっていました。

■委員
やっていましたか？

■区長室長
今もやっています。

■事務局（地域産業振興課長）
以前、そういった部署にいたときに知った情報ですが、戦略広報の内容にはなりますが、著名なＹｏｕＴｕｂｅｒとコラボレーションして事業紹介をしたり、著名な方とまちを歩きながら施設紹介や事業紹介をしたりという取組はしているところでございます。

■区長室長
なかなか経費がお高くて、物凄い著名人をお願いすることはなかなか難しいところもあります。

■委員
工夫次第ということで。

■区長室長
はい、頑張ります。ありがとうございます。

■会長
委員お願いいたします。

■委員
今の広報の強化のところに、加えて私から、各事業に参加すると他の事業も知ることができる仕組みがあるといいなと思っています。
例えば、しながわほけんしつの『しなわかカフェ』に参加した人が、もうちょっと個別にプライバシーが守られるところで相談をしたいと思ったら、こういう

相談窓口がありますよという情報が手にとれるとか。
　あと、先ほど男性専用の相談事業に関するお話が出たかと思うのですが、例えば区内の大学や事業者さんに依頼して、相談事業を実施していることをその場で発信してもらうなどは、結構有効な施策なのではないかと思っています。
　先ほど委員からも、３歳児健診での配布の話のところで、親御さんも学べるようにというようなお話があったのですが、その親御さんが何か相談したいと思ったときに、子どものことはどこに相談できるのか、自分のことはどこに相談できるのということを思ったときに、意外に、そもそも調べ方がわからないということもあると思うので、そういう相談先に繋げるというようなところが、各事業やイベント実施でも意識していただけるといいなと思いました。
　あと、具体的な話になるのですが、品川区のインスタグラムを見ていると、女性相談員の総合相談については年間予定が掲載されていて、ここで相談できますとなっているのですが、男性相談員による男性相談に関しては、相談をやっていますということだけが載っているという状況で、先々の予定がわからない状況になっています。もし年間予定が決まっていましたら、男性相談に限らず年間スケジュールを定期配信していただくのも、利用者増加という点では有効かと思いますので申し添えておきます。以上です。

■会長
　ありがとうございます。
　１点追加で私からも発言させていただきたいのですが、情報発信の点で特にストーカー・ＤＶ対策のところで、多言語配信がどうなっているのかが気になっています。ＤＶの被害者として、移住女性の方はかなり多いこと。そして移住女性のＤＶ被害はとても潜在化しやすいという問題がある。その中で、一時避難のための宿泊費助成があることがわかると、とても助かる移住女性の方々は多いと思います。
　例えばこの性別を問わず、というところに国籍を問わずということもきちんと入れて多言語での配信をしていくことについてご検討いただけるといいという意見を、一言だけ付け加えさせていただきます。
　その他ご意見、ご質問等ございますか。特にございませんようでしたら、今日はこちらで終了したいと思います。
　それでは本日の会議は終了します。マイクを事務局にお戻しいたします。

■事務局（人権・ジェンダー平等推進課長）
　皆様ありがとうございました。暑い中いらしていただいて、本当にありがとうございます。
　今後についてですが、本日の会議内容の議事録を作成し、皆様にご確認いただきます。また本日いただいたご意見をもと、評価についても確認させていただくかと思います。
　その他、様々ご意見をいただきましたものは、本日参加の所管課以外のところにも、必要な内容については報告し、区として取り組んで参りたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。
　第２回の会議につきましてはまた後日、ご連絡をさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。